



## ジェロントロジーを学ぼう！ 人生100年時代の基礎知識

# ジェロントロジーを学ぶには？ その意義やメリットとは？

ジェロントロジー推進室 主任研究員 前田 展弘  
e-mail : maeda@nli-research.co.jp

## Q1. これまで「ジェロントロジー」という存在自体知らず、学ぶ機会もなかったのですが、ジェロントロジー教育の実態はどうなっていますか？

### ■ジェロントロジーに関する学校教育は未発達

日本学術会議が2010年に全国の大学751校を対象にしたアンケート調査<sup>1</sup>によれば、回答があった361校（国公立106校、私立255校）のうち、「ジェロントロジー（老年学）」の科目や講座、コース、専修、専攻等を「設置している」と回答した大学は140校（38.8%）にのぼります。約4割の大学で設置されているということで見多いように見受けられますが、そのほとんどは、文学部の中の「高齢社会論」、看護学部の中の「老年看護学総論」、発達科学部の中の「身体機能加齢論」といった一つの科目の中に埋没してしまっているのが実態でした。これだと学生自身もジェロントロジー、老年学を学んだという自覚は乏しいでしょうし、学ぶ内容も部分的にならざるを得なかったのではないかと想像されます。

筆者が認識する限りで、ジェロントロジーを総合的に体系的に学ぶことができるのは、次の2校に限られます。それは桜美林大学と東京大学です。桜美林大学は日本で初めてジェロントロジーの学位を授与し始めた大学で、大学院国際学研究科内に「老人学専攻修士課程」を2002年に設置しました。また2004年には博士後期課程を増設し（2008年から老年学研究科の中に設置）、ジェロントロジー教育を先導してきています。東京大学では2006年に設置された「総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門」（現在の高齢社会総合研究機構に発展）が中心となって、2008年から大学3-4年生及び修士課程の学生を対象にした「学部横断ジェロントロジー教育講座」を開始し、さらに2014年からはジェロントロジーのリーディング大学院<sup>2</sup>も創設して、総合的なジェロントロジーの教育を進めています。ただ、いずれにしても学校教育の中でジェロントロジーはまだまだ広がっておらず、学んだ人、学んだと認識している人が少ないことは確かと思われます。

なお、前述のアンケート調査の中で、「ジェロントロジー教育が必要かどうか」を尋ねた結果では、3分の2（67%）の大学が、ジェロントロジー教育を「必要」と回答しています。では、なぜジェロ

<sup>1</sup> 調査実施主体は日本学術会議内に設置された「持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティ構築委員会」

<sup>2</sup> 文部科学省リーディング大学院プログラム「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム: Graduate Program in Gerontology : Global Leadership Initiative for an Age-Friendly Society (GLAFS)」を指す

ントロジー教育を行っていないのかその理由を尋ねると、「担当する教員がいない」が最も多く（複数回答で49%）、「ジェロントロジーに関する情報が不足している」が次に多い（同じく39%）結果となっています。

ちなみに、ジェロントロジー教育が先行している米国では、大学及び大学院において264のジェロントロジー教育プログラムが確認されています（2009年時点）<sup>3</sup>。米国でこれだけの数のジェロントロジー教育が行われている背景には、1965年に国策としてジェロントロジー教育及び研究が推進されたこと、そしてジェロントロジー教育を司る「ジェロントロジー高等教育機関 Association for Gerontology in Higher Education (AGHE)」の存在があります。日本でもこうしたジェロントロジー教育を推進する政策や機関の創設が期待されるところです。

## Q2. 社会人がジェロントロジーを学ぶにはどうすればよいですか？ またジェロントロジーを学ぶ必要性、意義やメリットとは何ですか？

### ■「高齢社会検定試験」は効率的に学ぶ手段～ジェロントロジーという基礎知識を仕事や人生に活かす～

社会教育が充実しているかと言えば、残念ながらそのようなこともありません。そうしたなかでジェロントロジーを学ぶには、ジェロントロジーに関連する書籍を読み漁ることが一つの方法ですが、極めて広範囲に及ぶジェロントロジーの内容を網羅するのは相応の時間と労力が必要になります。そこで比較的短時間で効率よく、少なくともジェロントロジーの「基礎」を身につけたいと思われる方には、「高齢社会検定試験」<sup>4</sup>にチャレンジすることがお薦めです。この試験は、東京大学の教授陣が中心に構成される一般社団法人未来社会共創センターが実施するもので、公式テキストも同じく東京大学の教授陣が中心となって制作した「東大がつくった高齢社会の教科書」が使われます（ニッセイ基礎研究所は編集協力）。2013年度からスタートし、今年度（2020年度）で8回目を迎えます。試験合格者には、ジェロントロジーの基礎を学んだことを証明する団体認証資格「高齢社会エキスパート」が付与され、昨年度まで2400名超の方が合格されました。その方々からは、仕事とプライベート双方の面から好評な声が寄せられています。

なお、そもそもなぜジェロントロジーを学ぶ必要があるのか、その意義やメリットは何でしょうか。ジェロントロジーを学ぶことは「高齢者及び高齢社会のことを“正しく”知る」ということです。「年をとるとどうなるのか、高齢化が本格化する未来がどうなっていくのか、その社会に必要な商品サービスとは何か、どのようなまちづくりを行っていくのがよいか」、こうしたことを考えていく上で、ジェロントロジーを学ぶことは有効です。高齢者はこうではないかとの推測のもとで、高齢者への対応や高齢者向けの商品サービス開発、または政策立案を行うと、誤った方向に向かってしまう可能性があります。意義やメリットは人それぞれとは思いますが、少なくともジェロントロジーというOS（Operating System）を自分の中に取り入れることで、仕事の面、また自分の将来設計の場面等により的確な解を見出していける可能性が高まると考えます。

<sup>3</sup> 塚田典子「日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科経営学修士課程における老年学講座の取り組み」（平成21年度総合福祉研究 特集号）より引用

<sup>4</sup> 年1回、東京（東京大学）・大阪の2会場で実施。2020年度は10月31日に実施。受験の案内及び申込みは一般社団法人未来社会共創センターHPから可能 <http://www.cc-aa.or.jp/>

日本の未来は超高齢社会であり、私たちはその中で人生100年時代を歩んでいきます。ぜひ一人でも多くの方がジェロントロジーを学んでいただき、その知識を仕事や人生において活かしていただくことが望まれます。

図表1 高齢社会検定の概要と合格者から寄せられる声

- 現代社会に不可欠な **3大スキル**⇒ **英語** **ICT** **高齢社会**
- 個人の人生設計課題、社会の高齢化課題の解決策を導く！
- 未来を考える上での必須基礎知識 **“絶対役に立つ！”**
- 2020年**10月31日**（土）東京（東京大学）・大阪他にて実施予定  
（各地でも団体受験も実施可）



お仕事の面で

**2400名を突破！**  
(2020年4月現在)

プライベートの面で

私たちは **高齢社会 エキスパート**

高齢社会に特に関心はなかったが、会社の勧めで勉強（受験）したら、これからの日本の未来の状況がよく理解できるようになって、仕事の視野が広がった

高齢化対応の新事業開発を担当することになり、テキストにあるデータや情報はとても参考になった。またこの試験に合格したことで、自信がついて説得力がアップした

普段、ご高齢のお客様と接する機会が多いのですが、この試験を勉強して、高齢者の気持ちや健康のことなどよくわかり、会話がしやすくなった。名刺に「高齢社会エキスパート」と書いていることも、高齢のお客様には印象がよい

高齢化の課題解決に向けた制度や政策をはじめ、世の中全体の動きを理解することができて、ビジネスアイデアが膨らんだ

会社の人事が奨励する資格なので、人事考課上プラスになる

老後について、漠然とした不安はなかったが、健康のこと、お金のこと、家のこと、また社会との関係など、高齢期の生活イメージがクリアとなって希望が持てるようになった

親の介護をしているが、ケアのこと、認知症のこと、介護施設のことなど、改めてよく理解できた。もっと早く学んでおけばよかったと思った

人生90-100年におよぶ人生の長さを改めて認識した。健康で長生きする秘訣もわかった。家に閉じこもりがちな父に、もっと外に出て活躍するように言います

合格者が集まる交流会に参加して、幅広い業種の方、年代の方と知り合うことができ人脈が広がった。合格者の皆さんの活躍の話を直接聞いて刺激になった

高齢者の話が中心ですが、これは若い人ができるだけ早く学んだほうが良い内容だと思った

資料：筆者作成